
ワルイージ達が共同生活を始めるようです

青い飛竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワルイージ達が共同生活を始めるようです

【Nコード】

N7127Z

【作者名】

青い飛竜

【あらすじ】

出番に恵まれないマリオキャラ達が知名度アップの為に共同生活を始めるようです。

基本的にセリフメインでマリオキャラで有名所のマリオやヨッシー、クッパ、ワリオ等の出番は控え目になっています。

2011/12/24現在の登場キャラクター一覧

ワルイージ、キノピコ、キャサリン、クッパJr、ヘイホー、ボ

スパックン、キングテレサ、ジユゲム

メタ・パロディ要素あり

登場人物紹介

主な登場人物

ワルイージ

一応この話の主人公…と云うことになっている。基本ツツコミ役だがたまに暴走する。

クツパ Jr.

クツパの息子。かなり生意気で腹黒い。勿論未成年。

キャサリン

オカマの恐竜。料理好きだが料理が致命的に下手。「オカマ」と言くと怒る。

キノピコ

キノピオの彼女。無邪気キャラだがたまに腹黒。因みに本人に悪意は無い。なお、キャサリン同様料理が下手。こちらも未成年。

ハイホー

この部屋で数少ないマトモなキャラ。料理、洗濯、掃除、修理と何でもできる。

キングテレサ

有名なお化け屋敷「テレサハウス」で一日中働いているため余り家にはいない。見た目とは裏腹に意外と真面目。

ボスパックン

どっかの植物園でバイトをしているらしい。

共同生活開始

キノコ王国某所

ジユゲム

「…というわけで皆さんに集まってもらいました」

ワルイージ

「待て。説明が無いぞ！」

ジユゲム

「まあ簡単に言うところの小説の説明の通りですね。じゃあ質問は？」

クツパ Jr.

「はいはい！」

ジユゲム

「はいそこ」

クツパ Jr.

「何でボクはマリオカート7に出場出来なかったんだよ！」

ジユゲム

「し、知りません！」

ワルイージ

「いきなりそう来たか！」

クツパ Jr.

「だいたいあの蜂がボクを差し置いて出場するのがおかしいんだよ」

ワルイージ

「ジユゲム、お前まさか…」

ジユゲム

「不正は無かった」

ワルイージ

「……………」

キノピコ

「は〜い」

ジユゲム

「どうしましたか？」

キノピコ

「ジユゲムはどこに住んでいるの？」

ジユゲム

「ああ、私の家ならこの家の裏にありますよ」

ワルイージ

「皆、とりあえず部屋決めて荷物置こうぜ！」

キノピコ

「わ〜広〜い」

ワルイージ

「これなら俺達が全員入れそうだな」

ハイホー

「結構豪華な造りですね」

ジユゲム

「どうですか？気に入りましたか？」

クツパ」

「まあ、これなら…」

ジユゲム

「あ、後マリオカートの件なのですが、皆さんにはこれからやって貰うかもしれないので心配いりませんよ」

ワルイージ

「いつやるんだ？」

ジユゲム

「詳しい事はまだ言えません」

キャサリン

「ヨッシーちゃんはいるんでしょうね！？」

ジユゲム

「それも秘密です」

ワルイージ

「てかお前は化粧とヨッシーの事しか興味無いかよー！」

キャサリン

「料理も趣味よ」

キノピコ

「キャサリンって料理できるんだ」

ワルイージ

「意外だ」

キャサリン

「晩御飯は私が作ってあげる」

共同生活開始（後書き）

引っ越し完了。

キャサリンの料理の腕や如何に…？

共同生活開始2（前書き）

ワルイージ

「タイトル適當過ぎるだろ！」

ボスパツクン

「俺の紹介も適當w」

共同生活開始2

〽1時間後〽

キャサリン

「出来たわっん」

鍋の中の紫色の液体から激臭が漂っている。

クツパ」」

「……」

キングテレサ

「……」

ハイホー

「……」

ワルイージ

「……誰か窓開ける……」

ボスパツクン

「おいしそ〜う」

ワルイージ

「止める！食ったら死ぬぞ！」

キノピコ

「あ、全部食べないでね。私達の食べる物が無くなるから」

ワルイージ

「ツッコむ所が違う上にお前も食う気かよ!？」

キャサリン

「何よアンタ達!アタシの料理が食べれないの!？」

ワルイージ

「…ゴメン。俺、自分の命の方が大事なんだ」

キャサリン

「キャサリンキイック」

ワルイージ

「ガハッ…」バタッ

ポスパックン

「いただきます」

クツパ」

「えっ、食うの…?」

微グロ注意

キングテレサ

「本当に食っちゃったぞ…」

キャサリン

「あら、パツクンちゃんったらいい子ね」

ボスパツクン

「パクパク……………！！??？」

ボスパツクンの体から紫色の液体が吹き出ている。

ボスパツクン

「¥\$#& a m p ; % * % \$ ¥ & a m p ; % % ~ ! !」バタッ

キングテレサ

「大丈夫か〜っ！」

ワルイージ

「どうみても大丈夫じゃ無いだろ」

キノピコ

「あ、ワルイージ復活した」

キャサリン

「パツクンちゃん！

…うつつ、ゴメンね。体から液体が吹き出すほどおいしい料理を作っちゃって…」

ワルイージ

（反省してねえ！）

ヘイホー

「仕方ないですね…」

↳更に1時間後↳

ヘイホー

「皆さん、出来ましたよ」

ワルイージ

「やっと出来たか」

キャサリン

「何で皆、私の料理を……ブツブツ」

ワルイージ

「とにかくお前は料理禁止だ!」

キャサリン

「……………」

ワルイージのクリスマス(前編)(前書き)

クツパ

「ゲハハ、ついにワガハイの出番だ！」

ワルイージのクリスマス（前編）

12/24 pm. 12:30

ワルイージ

「…暇だ………」

ワルイージ

「キノピコはキノピオとデートにキャサリンはヨッシーを強引にデート（なのかあれは？）にキングテレサは仕事、ハイホーはケーキを作るって言って朝から台所に籠ってやがる……」

ワルイージ

「おまけにボスパックンはキノピコとクツパーにクリスマスツリー代わりにされるし……」

クツパー

「そんなに暇ならボクがいるぞ！」

ワルイージ

「あ、お前いたのか」

クツパー

「ボクは朝からいるぞ！忘れるな！」

pm・1:00

クツパ Jr.

「せっかく男2人なんだし何かしようぜ」

ワルイージ

「言い回しがキモいぞ…男2人って何が言いたいんだよ」

クツパ Jr.

「やらないか？」

ワルイージ

「……」

クツパ Jr.

「マリカをね」

ワルイージ

「なんだそつちか…」

クツパ Jr.

「あれ…？何考えていたの…？ワルイージくん？まさかそつちの事とか…？」

ワルイージ

「……」(…いっ…！)

p m . 1 : 1 5

クツパ」r .

「これでW i i iの準備完了…っ」と

ワルイージ

「じゃあ早速マリカW i i iやるぞ」

く 2 時間後く

ワルイージ

「いくら暇だからって2時間もやれば飽きる」

クツパ」r .

「ボクも飽きた…」

プルルルル（電話の呼び出し音）

ワルイージ

「電話か…誰からだ？」

クツパ」r .

「まさか詐欺の…」

ワルイージ

「どつやったらその発想に至るんだよ！」

ワルイージ

「とりあえず取るつ」ガチャ

キノピコ

『は〜いキノピコです』

ワルイージ

『テンション高っ！』（クソッ、リア充め！）

キノピコ

『いきなりで悪いんだけどキノピオをそっちに連れて行っていい〜？』

ワルイージ

『ちよっとハイホーに聞いてみる』

〜数秒後〜

ハイホー

『はい、代わりました』

キノピコ

『連れて来ていい？』

ハイホー

『ああ、大丈夫ですよ』

〜更に数時間後〜

pm.6:30

キノピコ

「ただいま〜」

ヘイホー

「お帰りなさい」

キノピオ

「おじゃまします」「ペコリ

キノピコ

「キャサリンは？」

ワルイージ

「キャサリンなら帰ってきてる。ヨッシーを無理矢理連行してな」

ヨッシー

「ぐうぐう…くる…しい…」

キャサリン

「せつかくパーティーに誘ってあげたのに苦しいは無いじゃない！」
グイグイ

ワルイージ

「ならヨッシーを離してやれよ！締め上げるなよ！」

ピンポン

クツパ」r .

「誰かな？」

ワルイージ

「俺が出よう」ガチャ

クツパ

「グハハ、メリークリスマス……」

ワルイージ

「呼んでねえ、帰れ」ガチャン

クツパ

「……ワガハイを入れてくれないだろ！何も門前払いする事は無いではないか！」

クツパ」r .

「そーだよ、お父さんを入れる！」

ワルイージ

「ハイハイ……」ガチャ

ワルイージのクリスマス(前編)(後書き)

後編に続く

ワルイージのクリスマス(後編)(前書き)

クツパ

「続きなのだ」

ヨッシー

「さりげなく私達も初登場です」

キノピオ

「そうそう」

ワルイージのクリスマス（後編）

pm・7:00

ハイホー

「皆さん、準備が出来ましたよ〜！」

ワルイージ

「よし、食つぞ〜！」

ヨッシー

「おいしそう…」「ジュルルッ

一同

「では…」

一同

「いただきます〜！」

~~~~~

クツパ

「美味い！もつと酒を！」ヒック

ワルイージ

「勝手に人の家上がって酒飲むな！」



クツパ

「まあそういわずにワルイージも吞め！」ヒック

pm・7:50

クツパ

「ゴクゴク…」ヒック

ワルイージ

「ひゃゝあゝあゝあゝうゝまゝい」ヒック

キノピコ

「私も吞みたいな」

ワルイージ

「未成年はダメ、ゼツタイ！」

クツパ Jr.

「それでお父さん、サンタさんにクツパクラウンと3DSちゃんと頼んだ？」

クツパ

「あ、ああ…」(クツパクラウンは乗って来たから持つてるけど3DSは買って無いんだよね…)

ワルイージ

「サンタなんかいねーよ。サンタのオッサンの正体は…グッ…」ガシッ

ヘイホー

「子供の夢を壊すのは止めましょう」

キノピコ

「私もサタンさんに3DSをお願いしたんだ」

ワルイージ

「サタンじゃなくてサンタな……ってちょっと待て！キノピコのプレゼントってまさか……」

ヘイホー

「ワルイージさんが買うつもりですね……」

ワルイージ

「だよな……」

キノピコ

「どうかしたの……?」

キノピオ

「おい、キノピコ！こっちでヨッシーさんとボスパツケンさんで  
マリオパーティーやるつよー！」

キノピコ

「うん！そっち行くー！」

ワルイージ

「おい、クツパ」

クツパ

「何だ？」

ワルイージ

「クツパ」のプレゼントって買ったのか？」

クツパ

「クツパクラウドはワガハイが持ってきたからあるが、3DSは買ってないぞ」

ワルイージ

(クツパクラウドがクリスマスプレゼントってどついう事だよ…)

「じゃあ後で買いに行くか？」

クツパ

「賛成だ」

pm.9:00

キノピオ

「お邪魔しました！」

キノピコ

「またね」

ヨッシー

「では、さようなら」（ふう…死ぬかと思った）

キャサリン

「また来てねヨッシーちゃん」

ヨッシー

「はい」（行くならキャサリンがいない時がいいな…）

クッパ

「ワガハイ達はいつ行くか…」

クッパ」

「お父さん達どこに行くの？」

ワルイージ

「ん？どこにも行かないからガキは早くねな！サンタが来ないぞ」

クッパ」 & amp; キノピ」

「はい」

pm・10:00

ワルイージ

「さて、あいつらも寝た事だしそろそろ行くか」

ヘイホー

「お気をつけて」

p m . 1 0 : 1 5

〈某大手おもちゃ店〉

クツパ

「さて3DSを買うか」

ワルイージ

「俺の財布が悲鳴を上げてる…orz」

店内アナウンス

「ではこれからクリスマスセールを行います！各売り場のレジにて  
先着10名様に限り1品だけなんとたったの50コインで買えてし  
まいます！」

ワルイージ& amp ;クツパ

「えっ!?!」

ワルイージ

「これは…」

クツパ

「やるしか無いのだ!」

ワルイージ

「うおりゃあ!」ドンッ

アナウンス

「ワルイージがゲーム売り場にたかる主婦の群れに突っ込んだあ！」

主婦

「どきな！」ドスッ

ワルイージ

「ガハッ！」

アナウンス

「しかし、主婦強し！あっさりとワルイージを弾いてしまったあ！」

ワルイージ

「何でアナウンスが実況してるんだよ！」

クツパ

「ガハハ、ワガハイはクツパクラウンを使って上から取るのだ！」

アナウンス

「おおっとクツパは上から売り場に突入したぞ！」

ワルイージ

「俺も乗せる！」ガシッ

アナウンス

「ワルイージもクツパクラウンに乗り込んだ！」

クツパ

「重量オーバーなのだ！墜落するぞ！」

アナウンス

「重量オーバーのクツパクラウンが3DS売り場に墜落！しかし2人共何とか3DSは手に入れた！後はレジまで一直線だあ！」

ワルイージ

「クソッ！レジに人が押し寄せてくる！」

クツパ

「このままでは間に合わん！」

ワルイージ

「こうなったら一か八かで……」

アナウンス

「おおっとワルイージ、クツパ共にレジにヘッドスライディングをしたぞ！どうやら間に合ったみたいだあ！」

ワルイージ

「よっしゃああああ……！」

クツパ

「やったぞ」r.！」

店員

「あの〜申し訳ありませんがゲーム売り場のレジはあちらです」

ワルイージ& amp;・クツパ

「えっ…？」

その後フルイージとクツパはゲーム売り場の先着10人になる事が出来ず、定価で3DSを買ったのは言うまでもない事だった。



ワルイージのクリスマス(後編)(後書き)

ワルイージ

「俺の財布があ…」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7127z/>

---

ワルイージ達が共同生活を始めるようです

2011年12月25日01時48分発行